

# 課題別研修

## ーいじめ防止パッケージ H29事例ー

○以下の語は（ ）内を意味する  
S S E（ソーシャルスキル教育）

### いじめ事例（小学校）

1 A男（5年生）は進級時、「勉強、運動が苦手。」「イラストを描くことが得意。」「誰とでも仲  
2 良くてできる。」「友達とはいつも自分の好きなTV番組の話をしている。」など、「学習面に困難を  
3 抱えているが、日常生活での問題はない。」と引き継ぎがあった児童である。

4 1学期、ある日の昼休み、A男は友達数名が廊下で話をしていたところに、「何い？何い？何  
5 の話ー？なあなあ、今日〇〇TV見るー？」と、一際大きな声で友達の輪の中に割って入った。  
6 その場にいたB男は「うるせー！塾のテストの話だよ！TVじゃねーよ！」とA男に嫌悪感を強  
7 く表して言い放った。C男も「A男っていつも空気読めねー！」と強く言うと、他の児童も口  
8 々にA男を非難する発言をした。A男はあまりの言われように消沈し、その場を離れ、自席の  
9 机に塞いだ。

10 そこへ担任のD教諭が教室に入って来てA男に気付き「どしたー？」と声をかけたが、A男  
11 は反応しなかった。周りで昼休みのやり取りを見ていた女子数名が状況を説明したところ、D  
12 教諭は「B男、C男、もう少し優しくめに言ってやってもよかったなー。」と軽く注意した。

13 次の日の朝、A男の母親から学校に電話があった。「A男が泣いて学校に行きたくないと言っ  
14 ている。」「ひとまず今日は休ませて夕方話を聞いてみる。」という内容を教頭が聞いた。D教諭  
15 は教頭から電話の内容を聞き不安が募ったが、一日の業務を終えてから家庭訪問することにし  
16 た。

17 夕方、D教諭が家庭訪問をして、母親とともにA男から聞き取ったところによると、昨日、  
18 D教諭がB男とC男に注意した後、二人を含む数名から「結局、俺らだけ叱られる！」「空気読  
19 めや！」「自分が悪かったって言えや！」「幼稚か！」など、罵られ辛かったということだった。  
20 D教諭は辛い思いをさせたことを詫び、A男と母親の意向に沿って明日きちんと事実確認をし  
21 て、その後お互いの思いを交えて解決できるよう話し合いをもつことを母子と約束して帰校した。

22 帰校したD教諭は、待機していた生徒指導担当のE教諭と教務主任に報告した。E教諭は急  
23 遽、D教諭を交えた生徒指導委員会を開き「心理的な影響を受けたことで心身の苦痛を感じて  
24 いることから、本件をいじめと認識して双方の支援と指導に当たる。」ことを確認した。そして、  
25 E教諭は、管理職の了解を得て、明日の動きとして次のことを指示した。

- 26 ・（1時間目）関係する男子児童に、複数の教員で同時に聞き取りをする。
- 27 ・（1時間目）クラスの児童には、教務主任が昨日の出来事の様子を記述するアンケートをとる。
- 28 ・（昼休み）聞き取りとアンケートを基に、D教諭、E教諭、教務主任とで指導方針を確認する。
- 29 ・（放課後）D教諭とE教諭で、関係する男子児童に指導する。

30 翌日、予定通り児童への確認や指導が行われた。その日の夕方、D教諭とE教諭は、A男の  
31 自宅に家庭訪問して、A男と母親に対して、男子児童たちのA男に対するこれまでの思いとと  
32 もに指導した内容と、学校としての解決の方針を説明し、和解の方向性について意向を尋ねた。  
33 A男と母親は、A男自身の言動も周囲への配慮が足りず、友達の気分を害していたことに理解  
34 を示し、学校の方針のとおり、双方がお互いの気持ちを交えて和解することを望んだ。

35 次の日の放課後、A男は母親とともに登校し、D教諭、E教諭、教務主任同席のもと、関係  
36 した男子児童たちと話し合いをもった。その場で双方が、その時の気持ちやそれまでの気持ちを  
37 発言し、言葉と気持ちのすれ違いや捉え方の違い、今後の関わり方などを確認して、気持ちよ  
38 く話し合いを済ませることができた。

39 その後、E教諭は、今後も同じようなことが起こらないよう、5年生だけでなく、全学年で  
40 S S Eに取り組むことと、日頃の児童たちの様子を丁寧に見取っていくために、心理検査を定  
41 期的に実施することを提案した。

# 課題別研修

## －いじめ防止パッケージ H29事例－

○以下の語は（ ）内を意味する  
S S E（ソーシャルスキル教育）

### いじめ事例（中学校）

1 A男（1年生）は入学前、「勉強、運動が苦手。」「イラストを描くことが得意。」「誰とでも仲  
2 良くてできる。」「特定のキャラクターが極端に好き。」など、「学習面に困難を抱えているが、日  
3 常生活での問題はない。」と小学校から引き継ぎがあった生徒である。

4 1学期、中間テスト初日の昼休み、A男は友達数名が廊下で話をしていたところに、「何い？  
5 何い？何の話ー？やっとテスト終わったなー！今日〇〇TV見るー？」と、一際大きな声で友達  
6 の輪の中に割って入った。その場にいたB男は「うるせー！テストの話だよ！TVとか見てられ  
7 ねーだろー。A男くらい勉強が気にならないって、ある意味うらやましいわ！」とA男に嫌悪  
8 感を強く表して言い放った。C男も「A男っていつもだな。まるで空気読めねー！」と強く言  
9 うと、その他の生徒も口々にA男を非難する発言をした。A男はあまりの言われように消沈し、  
10 その場を離れ、自席の机に塞いだ。

11 そこへ担任のD教諭が教室に入って来てA男に気付き「どしたー？」と声をかけたが、A男  
12 は反応しなかった。周りで昼休みのやり取りを見ていた女子数名が状況を説明したところ、D  
13 教諭は「B男、C男、もう少し優しくめに言ってやってもよかったなー。」と軽く注意した。

14 次の日の朝、A男の母親から学校に電話があった。「A男が泣いて学校に行きたくないと言っ  
15 ている。」「今日は休ませて夕方話を聞いてみる。」という内容を教頭から聞いた。D教諭は教頭  
16 から電話の内容を聞き不安が募ったが、一日の業務を終えてから家庭訪問することにした。

17 夕方、D教諭が家庭訪問をして、母親とともにA男から聞き取ったところによると、昨日、  
18 D教諭がB男とC男に注意した後、二人を含む数名から「結局、俺らが叱られる！」「空気読め  
19 や！」「自分が悪いんだろうが！」「幼稚か！」など、罵られ辛かったということだった。D教  
20 諭は辛い思いをさせたことを詫び、A男と母親の意向に沿って明日きちんと事実確認をして、  
21 その後お互いの思いを交えて解決できるよう話し合いをもつことを母子と約束して帰校した。

22 帰校したD教諭は待機していた生徒指導主事のE教諭と学年団に報告した。E教諭は急遽、  
23 D教諭と学年主任を交えた生徒指導委員会を開き「心理的な影響を受けたことで心身の苦痛を  
24 感じていることから、本件をいじめと認識して双方の支援と指導に当たる。」ことを確認した。  
25 そして、E教諭は、管理職の了解を得て、明日の動きとして次のことを指示した。

- 26 ・（1時間目）関係する男子生徒には、学年団教員が複数で同時に聞き取りにあたる。
- 27 ・（1時間目）クラスの生徒には、副担任が昨日の出来事の様子を記述するアンケートをとる。
- 28 ・（昼休み）聞き取りとアンケートを基に、E教諭、学年団で指導方針を確認する。
- 29 ・（放課後）D教諭と副担任で、関係する男子生徒に指導する。

30 翌日、予定通り生徒への確認や指導が行われた。その日の夕方、D教諭と学年主任は家庭訪  
31 問して、A男と母親に、男子生徒たちのA男に対するこれまでの思いとともに指導した内容と、  
32 学校としての解決の方針を説明し、和解の方向性について意向を尋ねた。A男と母親は、A男  
33 自身の言動も周囲への配慮が足りず、友達の気分を害していたことに理解を示し、学校の方針  
34 のとおり、双方がお互いの気持ちを交えて和解することを望んだ。

35 次の日の放課後、A男は母親とともに登校し、D教諭、E教諭と学年団教員数名が同席して  
36 関係した生徒たちと話し合いをもった。その場で双方が、その時の気持ちやそれまでの気持ちを  
37 発言し、言葉と気持ちのすれ違いや捉え方の違い、今後の関わり方などを確認して、気持ちよ  
38 く話し合いを済ませることができた。

39 その後、E教諭は、今後も同じようなことが起こらないよう、1年生だけでなく、全学年で  
40 S S Eに取り組むことと、日頃の生徒たちの様子を丁寧に見取っていくために、心理検査を定  
41 期的に実施することを提案した。

# 課題別研修

## －いじめ防止パッケージ H29事例－

○以下の語は（ ）内を意味する  
S S E（ソーシャルスキル教育）

### いじめ事例（高等学校）

1 A男（1年生）は入学前の調査書の内容と、中学校教員との連絡会の内容から、「勉強が苦手。」  
2 「中3で12日断続欠席。」「特定のキャラクターが極端に好き。」「欠席が多く学習面に困難を抱  
3 えているが、日常生活での問題はない。」などと引き継ぎがあった生徒である。

4 1学期、中間テスト初日の昼休み、A男は友達数名が廊下で話をしていたところに、「何い？  
5 何い？何の話いー？高校のテストわけ分からんしなー！今日帰りゲーセン行くー？」と、大き  
6 な声で友達の輪の中に割って入った。その場にいたB男は「うるせー！行くわけねえだろ！お  
7 前くらいテストが気にならないって、ある意味うらやましいわ！」とA男に嫌悪感を強く表し  
8 て言い放った。C男も「お前っていつもだな。まるで空気読めねー！」と強く言うと、その他  
9 の生徒も口々にA男を非難する発言をした。A男はあまりの言われように消沈し、その場を離  
10 れ、自席の机に塞いだ。

11 そこへ担任のD教諭が教室に入って来てA男に気付き「どしたー？」と声をかけたが、A男  
12 は反応しなかった。周りで昼休みの様子を見ていた生徒数名が状況を説明したところ、D教諭  
13 は「B男、C男、もう少し優しくしてやってよかったなー。」と軽く注意した。

14 次の日の朝、A男の母親から学校に電話があった。「A男が学校に行きたくないと言っている。」  
15 「今日は休ませて夕方話を聞いてみる。」という内容を教頭が聞いた。D教諭は教頭から電話の  
16 内容を聞き不安が募ったが、放課後、改めて電話連絡することにした。

17 夕方、D教諭が電話連絡をして、A男から聞き取ったところによると、昨日、D教諭がB男  
18 とC男に注意した後、二人を含む大勢から「結局、俺らが叱られる！」「空気読めや！」「子供  
19 か？！」「巻き込むな！」など、罵られ辛かったということだった。D教諭は辛い思いをさせた  
20 ことを詫び、A男の意向に沿って明日きちんと事実確認をして、その後お互いの思いを交えて  
21 解決できるよう話し合いをもつことを約束して電話を切った。

22 D教諭は、この件を学年の生徒指導担当のE教諭に報告した。E教諭が生徒課長に報告する  
23 と、急遽、D教諭と学年主任を交えた生徒課会議を開くことになった。生徒課長はその場で「心  
24 理的な影響を受けたことで心身の苦痛を感じていることから、本件をいじめと認識して双方の  
25 支援と指導に当たる。」ことを確認した。その後、生徒課長は、管理職の了解を得て、明日の動  
26 きとして次のことを指示した。

- 27 ・（1時間目）関係する男子生徒には、学年団教員が複数で同時に聞き取りにあたる。
- 28 ・（1時間目）クラスの生徒には、副担任が昨日の出来事の様子を記述するアンケートをとる。
- 29 ・（昼休み）聞き取りとアンケートを基に、E教諭を中心に学年団で指導方針を確認する。
- 30 ・（放課後）D教諭と副担任で、関係する男子生徒に指導する。

31 翌日、E教諭の指示に従って指導が行われた。その日の夕方、D教諭とE教諭は家庭訪問し  
32 て、A男と母親に、男子生徒たちのA男に対するこれまでの思いとともに指導した内容と、学  
33 校としての解決の方針を説明し、和解の方向性について意向を尋ねた。A男と母親は、A男自  
34 身の言動も周囲への配慮が足りず、友達の気分を害していたことに理解を示し、学校の方針の  
35 とおり、双方がお互いの気持ちを交えて和解することを望んだ。

36 次の日の放課後、学年団教員数名が同席のもと、A男は関係した男子生徒たちと話し合いをも  
37 った。その場で双方が、その時の気持ちやそれまでの気持ちを発言し、言葉と気持ちの捉え方  
38 の違い、今後の関わり方などを確認して、気持ちよく話し合いを済ませることができた。

39 その後、E教諭は今後も同じようなことが起こらないよう、1年生全クラスでS S Eに取り  
40 組むことと、日頃の生徒たちの様子を丁寧に見取っていくために、心理検査を定期的の実施す  
41 ることを提案した。

# 課題別研修

## ーいじめ防止パッケージ H29事例ー

○以下の語は（ ）内を意味する  
スマホ（スマートフォン）  
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）

### ネットいじめ事例（小学校）

1 A子（5年生）の学年では児童の約6割が自分専用のスマホを所持しており、そのうち約7割は匿名で日々の  
2 出来事や、個人的に感じたことなどを自由に発信することができるSNSを利用している。また、このサービス  
3 は、学校内外を問わず不特定多数の相手が発信・閲覧でき、得たい情報がある時には関連キーワードを入力すれ  
4 ば、真偽は別として多数の利用者が発信した情報を入手することができるものである。

5  
6 ある日の夕刻、塾の帰り道、A子のスマホに、同じ学校に通う幼なじみのB子から着信があった。毎朝一緒に  
7 登校しているB子からの電話は珍しいことで、A子は戸惑ったが電話に出た。B子からの電話は、「A子、SN  
8 Sが大変なことになってる！大丈夫？」という内容だった。不安に思ったA子はその場でSNSを立ち上げると、  
9 次のような信じられないやりとりが書き込まれていた。

（以下、書き込みの一部。AAはA子、BBはB子の匿名、その他は相手不詳の匿名を表す。）  
10 XX「○小5年のAAへボすぎ↓」  
11 YY「分かる～AA。マジきも↓↓」  
12 ZZ「AAさらせ（笑）」  
13 BB「何これ？こんな場所じゃないけど。」  
14 XX「BBウザ（怒）」  
15 ZZ「BB=A子だったりして～（笑笑）」  
16 XX「A子オワタね♪」

17 この後のやりとりは、際限なくA子への誹謗中傷が続いていた。その数分後にはA子自身の本名、住所、学校  
18 名、家族構成など、個人情報が見つけられ、明日以降A子が登校すると（独り）ボッチにされることになっていた。  
19 A子はXX、YY、ZZの心当たりがなく、強烈な恐怖を感じたが、A子自身ではどうすることもできなかった。

20 A子は、SNSを親に内緒で利用していたため、親に相談できず、その夜はほとんど寝られないまま翌朝を迎  
21 えた。気がどうにかかなりそうなほど不安だったが、親に知られなくなかったため、何とか時間通りに登校した。  
22 しかし登校すると早速、下足箱の上履きの中に「オワタボッチれ！」とちぎれた紙に殴り書きのメッセージが投  
23 げ込まれていた。A子はその場にへたり込んでしまい立ち上がれなくなってしまう。そこへ通りかかったC養  
24 護教諭が、ただ事ではないA子の様子に気づき、近くにいた女性D教諭とともにA子を保健室まで連れて行き、  
25 寝かせた。

26 C養護教諭とD教諭は、A子が落ち着くまで寄り添い、時間をかけて昨晩からの出来事を聞き取った。D教諭  
27 は緊急に対応する必要があると判断し、担任と生徒指導担当のE教諭に連絡することをA子に納得させた。

28 すぐにD教諭は職員室に戻り、担任とE教諭に報告した。E教諭は、「SNSの対象者や、出来事が不明瞭な  
29 点が多いが、放っておいては深刻ないじめに進展する可能性があるため、組織対応をする。」として、生徒指導  
30 委員会を開き、管理職の了解を得て、以下のように対応を指示した。

- 31 ①担任は、A子と保護者に、「スマホの契約先に行き、このような事態の対処法を教えてください」とともに、可能  
32 な対応をしてもらう。また、警察へ被害に関する相談に行く。」ことを助言する。  
33 ②担任とE教諭は、A子と保護者に了解を得て、ことの成り行きをクラスに説明し、A子は保護者とともに警察  
34 に相談していることを知らせる。  
35 ③全児童を対象に生活アンケートを実施し、有力な情報を記述した児童には具体的な内容を直接聞き取る。  
36 ④全教職員が出来事を共通理解し、A子を中心に見守り体制を強化する。

37  
38 次の日朝早く、A子は母親とともに登校してきた。二人とも不安は拭いきれていないようだったが、相談室で  
39 担任とE教諭から学校の支援体制の説明を聞いてから、A子は少し安心した顔つきを見せた。

40 始業直前に担任とともに相談室を出たところ、職員室前で不安げにB子が待っていた。B子はA子に気づき、  
41 必死に涙を堪えながら、気丈にA子を励ました。そして、二人で教室に向かって歩き始めた。

42 その後、E教諭は、同じことが起こらないよう、SNSによるやり取りでの注意点を確認するとともに、望ま  
43 しい人間関係について考えさせる授業を全学級で実施することを提案した。

# 課題別研修

## ーいじめ防止パッケージ H29事例ー

### ネットいじめ事例（中学校）

○以下の語は（ ）内を意味する  
スマホ（スマートフォン）  
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）  
orz（“落胆”を表現したアスキーアート）  
アカウント（SNS等を使用する権利）

1 A子（3年生）の学年は生徒の約9割が自分専用のスマホを所持しており、そのうち約7割の生徒は匿名で日  
2 々の出来事や、個人的に感じたことなどを自由に発信することができるSNSを利用している。このサービスは、  
3 学校内外を問わず不特定多数の相手が発信・閲覧できる。また、得たい情報がある時には関連キーワードを入力  
4 すれば、真偽は別として多数の利用者が発信した情報を入手することができるものである。

5  
6 ある日の夕刻、塾の帰り道、A子のスマホに幼なじみのB子から着信があった。毎朝一緒に登校しているB子  
7 からの電話は珍しいことで、A子は戸惑ったが電話に出た。B子からの電話は、「A子のSNSアカウントが乗  
8 っ取られているんじゃない？気を付けて！」という内容だった。不安に思ったA子はその場でSNSを立ち上げ  
9 ると、次のような信じられないやりとりが書き込まれていた。

（以下、書き込みの一部。A AはA子の匿名、その他は相手不詳の匿名を表す。）

11 A A「うちのガッコの■■へボすぎ↓」（■■は文字を隠している。）

12 X X「分かるぜ～■■。マジへぼ↓↓」

13 Y Y「■■曝せ（笑）」

14 A A「みんなもそう思う？□□恥ずす～」（□□は実在する生徒の名字）

15 Z Z「仕方ねーな□□だからorz」

16 W W「A子、マジ曝したか・・・おめーオワタよ（笑）」

17 Y Y「マジでさすかね？A子ツウホウ」

18 この後のやりとりは、際限なく増長していき、数分後にはA子自身の本名、住所、学校名、家族構成など、個  
19 人情報が明かされた。さらに、明日以降A子が登校すると（独り）ボッチにして晒し者になることになっていた。

20 A子は強烈な恐怖を感じ、慌ててSNSから退会しようとしたがパスワードが変更されており、ようやくSN  
21 Sのアカウントが乗っ取られていることに気付いた。

22 A子自身はすることもできず、親にも相談できず、その夜はほとんど寝られないまま翌朝を迎えた。気が  
23 どうにかかなりそうなほど不安だったが、親に相談していない後ろめたさもあり、何とか時間通りに登校した。し  
24 かし、下足箱の上履きの中に「オワタボッチれ！」とちぎれた紙に殴り書きのメッセージが投げ込まれていた。  
25 A子はその場で腰が抜けてしまい立ち上がれなくなってしまった。そこへ通りかかったC養護教諭が、ただ事では  
26 ないA子の様子に気付き、近くにいた3年団の女性D教諭とともにA子を保健室まで連れて行き、寝かせた。

27 C養護教諭とD教諭は、A子が落ち着くまで寄り添い、時間をかけて昨晩からの出来事を聞き取った。D教諭  
28 はA子の状況は緊急に対応する必要があると判断し、A子を説得して担任と生徒指導主事のE教諭に相談するこ  
29 との同意を取り付けた。

30 すぐにD教諭は職員室に戻り、担任とE教諭に報告した。E教諭は、「SNSの対象者や、出来事が不明瞭な  
31 点が多いが、放っておいては深刻ないじめに進展する可能性があるため、組織対応をする。」として、生徒指導  
32 委員会を開き、管理職の了解を得て、以下のような対応をするよう指示した。

33 ①担任は、A子と保護者に、「スマホの契約先に行き、このような事態の対処法を教えてください。また、可能  
34 な対応をしてもらおう。また、警察へ被害に関する相談に行く。」ことを助言する。

35 ②担任とE教諭は、A子と保護者に了解を得て、ことの成り行きをクラスに説明し、A子と保護者は警察に相談  
36 していることを知らせる。

37 ③□□の担任とE教諭で□□宅へ家庭訪問し、事情説明と家庭の意向を聞き取る。

38 ④全校生徒を対象に生活アンケートを実施し、有力な情報を記述した生徒には具体的な内容を直接聞き取る。

39 ⑤全教職員が出来事を共通理解し、A子と□□を中心に見守り体制を強化する。

40 A子は数日欠席した後、保護者とともに登校してきた。二人とも不安は拭いきれていないようだったが、相談  
41 室で担任とE教諭から学校の支援体制の説明を聞いてから、A子は少し安心した顔つきを見せた。

42 始業直前に担任とともに相談室を出たところ、職員室前で不安げにB子が待っていた。B子はA子に気付き、  
43 必死に涙を堪えながら、気丈にA子を励ました。そして、二人で教室にに向かって歩き始めた。

44 その後、E教諭は、SNSアカウントの乗っ取りなど脆弱性を知る内容とともに、SNSのやり取りで生まれ  
る誤解を取り上げた授業を通して、望ましい人間関係について考えさせるよう全教職員に提案した。

# 課題別研修

## ーいじめ防止パッケージ H29事例ー

### ネットいじめ事例（高等学校）

○以下の語は（ ）内を意味する  
スマホ（スマートフォン）  
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）  
orz（“落胆”を表現したアスキーアート）  
アカウント（SNS等を使用する権利）

1 A子（2年生）の学校は生徒のほぼ全員がスマホを所持しており、そのうち約8割の生徒は、匿名で日々の出  
2 来事や、個人的に感じたことなどを自由に発信することができるSNSを利用している。このサービスは、学校  
3 内外を問わず不特定多数の相手が発信・閲覧できる。また、得たい情報がある時には関連キーワードを入力すれ  
4 ば、真偽は別として多数の利用者が発信した情報を入手することができるものである。

5 ある日の夜、塾の帰り道、A子のスマホに、幼なじみで別の高校に通うB子から着信があった。毎日のように  
6 SNSでやり取りをしている仲良しのB子からの電話は珍しいことで、A子は戸惑ったが電話に出た。B子から  
7 の電話は、「A子のSNS、乗っ取られているんじゃない？気を付けて！」という内容だった。不安に思ったA  
8 子はその場でSNSを立ち上げると、次のような信じられないやりとりが書き込まれていた。

9 （以下、書き込みの一部。AAはA子の匿名、その他は相手不詳の匿名を表す。）

10 AA「うちのガッコの■■バカ〜！」（■■は文字を隠している。）

11 XX「んだ。うましか■■。マジへぼ↓↓」

12 YY「■■曝せ（笑）」

13 AA「みんなもそう思う？□□恥ず〜」（□□は実在する生徒の名字）

14 ZZ「仕方ねーな□□だからorz」

15 WW「A子、マジさらしたか・・・おめーオワタよ（笑）」

YY「マジでさらすかね？A子ツウホウ」

16 この後は、際限なくA子への誹謗中傷が続き、数分後にはA子自身の本名、住所、学校名、家族構成など、個  
17 人情報が明かされた。そして、明日以降A子が登校すると（独り）ポッチにして晒し者になることになっていた。

18 A子は強烈な恐怖を感じ、慌ててSNSから退会しようとしたがパスワードが変更されており、ようやくSN  
19 Sのアカウントが乗っ取られていることに気付いた。

20 A子自身はどうすることもできず、親にも相談できず、その夜はほとんど寝られないまま翌朝を迎えた。気が  
21 どうにかかなりそうなほど不安だったが、親に知らせてない後ろめたさもあり、何とか時間通りに登校した。しか  
22 し、下足箱の上履きの中に「オワタポッチれ！」とちぎれた紙に殴り書きのメッセージが投げ込まれていた。A  
23 子はその場で腰が抜けてしまい立ち上がれなくなってしまう。そこへ通りかかったC養護教諭が、ただ事では  
24 ないA子の様子に気付き、近くにいた2年団の女性D教諭とともにA子を保健室まで連れて行き、寝かせた。

25 C養護教諭とD教諭は、A子が落ち着くまで寄り添い、時間をかけて昨晚からの出来事を聞き取った。D教諭  
26 はA子の状況は緊急に対応する必要があると判断し、A子を説得して担任と生徒課のE教諭に相談することの同  
27 意を取り付けた。

28 すぐにD教諭は職員室に戻り、担任とE教諭、生徒課長に報告した。生徒課長は「SNSの対象者や、出来事  
29 が不明瞭な点が多いが、放っておいては深刻ないじめに進展する可能性があるため、組織対応をする。」として、  
30 生徒課会議を開き、管理職の了解を得て、以下のような対応を指示した。

31 ①担任は、A子と保護者に、「スマホの契約先に行き、このような事態の対処法を教えてもらうとともに、可能  
32 な対応をしてもらう。また、警察へ被害に関する相談に行く。」ことを助言する。

33 ②担任と学年主任は、A子と保護者の了解を得てことの成り行きをクラスに説明し、A子と保護者は警察に相談  
34 していることを知らせる。

35 ③□□の担任と2年団生徒課教諭で□□宅へ家庭訪問し、事情説明と家庭の意向を聞き取る。

36 ④全校生徒を対象に生活アンケートを実施し、有力な情報を記述した生徒には具体的な内容を直接聞き取る。

37 ⑤生徒課長はB子の通う高校の生徒課にコンタクトを取り、情報連携を依頼する。

38 ⑥全教職員が出来事を共通理解し、A子と□□を中心に見守り体制を強化する。

40 A子は数日欠席した後、保護者とともに登校してきた。二人とも不安は拭いきれていないようだったが、相談  
41 室で担任とE教諭から学校の支援体制の説明を聞いてから、A子は少し安心した顔つきを見せた。

42 始業直前に担任とともに相談室を出たところ、D教諭がA子を待っていた。そして、D教諭に励まされながら、  
43 二人で教室に行った。

44 その後、E教諭は、SNSアカウントの乗っ取りなど脆弱性を知る内容とともに、SNSのやり取りで生まれ  
45 る誤解を取り上げた授業を通して、望ましい人間関係について考えさせるよう全教職員に提案した。